

巻頭特集

高所作業必携！ 墜落制止用器具 06

特集

博物館の空間演出 14

新作施設

ホテルオリエンタルエクスプレス 東京蒲田 22

表紙「オートレント 高所作業車総合レンタルサービス案内」 解説 26-27ページ

365日 24時間対応

オペレーター付きは業界No.1

ONE STOP AUTORENT

高所作業車総合レンタル



オートレント

フルハーネス型墜落制止用器具装着手順

資料提供：藤井電工 株式会社

墜落を制止する際、適切に装着できていないとハーネスがずり上がり、事故につながる。そのため緩みなく確実に着用しなくてはならない。また、作業効率を優先するあまり、部品を外すようなこと

は禁物。

装着手順を下欄に掲載するが、実際に使用する際は、製品付属の取扱説明書の記載事項に従うことが重要だ。



①肩ベルト部に腕を通す



②胸バンドを連結する



③胴ベルトを締める



④腿ベルトを連結する



⑤肩ベルトの長さを調整する



⑥腿ベルトの長さを調整する



⑦腿ベルトの余長部分を留める



⑧胸バンドの長さを調整する



⑨装着完了

★チェックポイント

作業中、部品の不良などによりフルハーネスが壊れ、墜落することがないように作業前点検は欠かせない。下表を参考に自社オリジナルの項目を作成してほしい。

No	内容	チェック
1	ベルトの摩耗、傷、ねじれ、塗料・薬品類による変色・硬化・溶解	
2	縫糸の摩耗、切断、ほつれ	
3	金具類の摩耗、亀裂、変形、錆、腐食、樹脂コーティングの劣化、電気ショートによる溶融、回転部や摺動部の状態、リベットやバネの状態	
4	ランヤードの摩耗、素線切れ、傷、やけど、キンクや撚りもどり等による変形、薬品類による変色・硬化・溶解、アイ加工部、ショックアブソーバの状態	
5	巻取り器のストラップの巻込み、引き出しの状態	

「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」をもとに作成

Interview

株式会社 ユーネックス 代表取締役 大澤恵司 氏

労働災害から身を守るのは会社ではなく自分自身

業界内では、年に数件、労働者が高所作業中に墜落したという話を耳にします。原因としては、当たり前のことができていなかったということに尽きます。つまり、高所作業であるにも関わらず安全帯を使用していなかったということです。

法令でも定めている通り、現場で災害が起きた場合の責任は全て事業者にあります。しかし安全帯を使うのか、使わないのか、最後に判断するのは自分自身です。

「会社と言われたから」「会社のため」といったやらされ感から使っているのは、不安行動の原因となり、災害につながります。何故安全帯を使用しなくてはならないのかということをしっかり考え、一人ひとりが明日は我が身の精神で安全意識を持ち、自分の身は自分で守らなくてはなりません。

とはいえ、着用してくれない労働者も多いかと思いますが、経営者はめげずに五月蠅いと思われるくらい、口を



酸っぱくして注意喚起を続けなくてはなりません。

安全意識の高い現場では同僚間での声掛けが習慣化となっているようです。そうした取組事例も参考にすべきでしょう。

安全帯は着用すると動きにくく、作業の妨げになりますが、命は何物にも変えられません。命を落とすことになった場合、家族はどうするのでしょうか。遺された者の身になってほしい。

安全帯は安いものではありません。使用期限も設定されており、定期的買い直す必要があります。そのため、ある程度の費用が掛かることになりませんが、災害後の労働者への補償、工期遅延などのリスクを考えれば、決して高い投資ではないと思います。

労働災害が招く影響は決して小さくありません。後先のことをしっかり考えた上で安全第一で作業を行ってほしいものです。

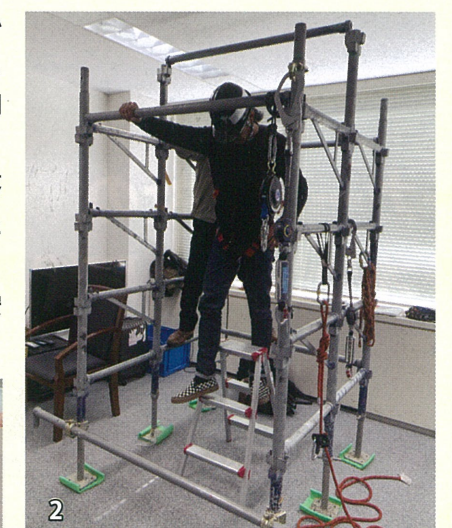
大澤氏が副会長を務める（一社）サインの森では、今年2月からフルハーネス型墜落制止用器具の特別教育を実施している。これまで、東京のほか、名古屋、仙台、沖縄、群馬、宇都宮、福岡で講習を行ってきた。

カリキュラムは概ね法令に沿って行われ、特徴的なものが墜落の疑似体験。簡易な設備ではあるが、墜落制止用器具を着用した上で、墜落時の衝撃を体感することができる。

受講者からの評判も良く、「墜落の恐さを知ることができた」「安全意識が高まった」などの声も挙がっているという。



①講習風景。
②墜落災害を疑似体験するための器具。
③受講後に配布される特別教育講習修了証。画像は見本。



特別教育講習修了証

